

胆石形成食によるマウスの脂肪肝モデル

—新しい食餌誘導型非アルコール性脂肪肝症の作成—

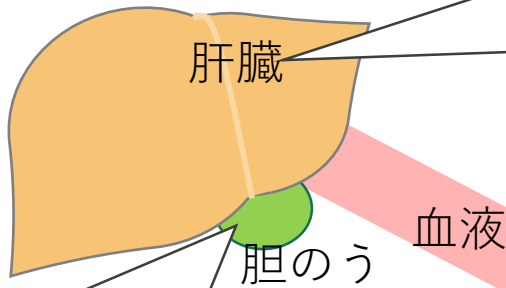
成果の特徴

- コレステロールとコール酸を含む胆石形成食を摂取したマウスでは、肝機能障害を伴わない脂肪肝が確認できます。

成果の内容

正常食または**胆石形成食（LG食）**を
4週間以上摂取

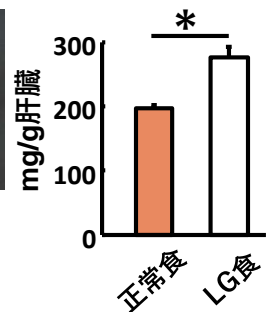
（LG食：正常食＋コレステロール、コール酸）



正常食

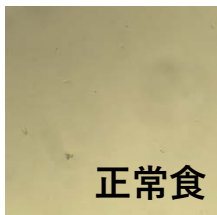


LG食

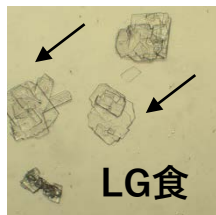


肝臓中脂質量

LG食摂取により
肝臓に脂肪の蓄積
が確認されます。

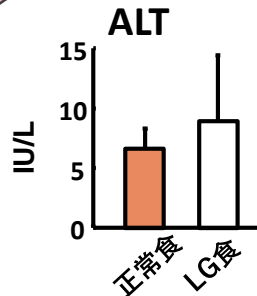


正常食



LG食

LG食摂取マウスでは、胆汁中に
胆石（コレステロールの結晶）
が確認されます



ALT



TBARS

肝障害の指標（血中ALT、TBARS）
に食餌による差は見られません

成果の活用

本研究成果は非アルコール性脂肪肝（NAFLD）、メタボリックシンドローム等の生活習慣病研究分野において、食餌性疾患動物モデルとしての活用が期待されます。
学会発表: 橋本他、「フラボノイド摂取によるマウスでの胆石形成抑制作用機構の解析」BMB 2015, 2P1253